

徳永真一郎のギターを聴く 呼び覚ます時



photo by Tobru Yuasa

徳永真一郎 クラシックギター
Shin-ichiro Tokunaga, Classic Guitar

徳島県出身。9歳からギターを学び、2007年に渡仏。2016年パリ国立高等音楽院修士課程を満場一致の首席で修了。ギターを川竹道夫、アレクシス・ムズラキス、ローラン・ディアンス、ジュディカエル・ペロワ各氏に、古楽・リュートを今村泰典氏に師事。また、キジアーナ音楽院のオスカー・ギリア氏のクラスにて最優秀ディプロマを取得。2010年オルシュティン国際ギターコンクール第1位及びグランプリ。2018年ヴェリア国際ギターコンクールのコンチェルト部門にて第2位入賞。2018年7月に発売したアルバム『テリユール』は、文化庁芸術優秀賞を受賞。<http://shinichirotokunaga.com>

今日「クラシックギター」と呼ばれている楽器は、19世紀後半にスペインのギター製作家アントニオ・デ・トーレスによってその原型が作られました。より大きな本体、強い弦の張力に耐える内部の構造の開発など、ギターにとって大きな変化でした。トーレス以前のギターは今では「19世紀ギター」或いは「ロマンティックギター」と呼ばれ、その名の通り19世紀前半にパガニーニやベルリオーズなどの作曲家に愛奏されていた楽器です。現代のギターよりひと回り小さな本体から生まれる弦の音、それらが織りなす響きは当時の音楽への想像力を掻き立てます。

武満徹が、J.S.バッハへのオマージュとして『コラール No.72』を引用して書いた『フォリオス』。バッハ自身が『チェロ組曲第5番』をリュートのために編曲した『組曲 BWV995』などを演奏します。

「19世紀のギター」と現代の「クラシックギター」。
この2本の楽器の違いをお楽しみいただければ幸いです。

| | |
|----------------|--|
| <i>Program</i> | <p><i>Part1</i> 19世紀ギター(レプリカ)による ソル: 悲歌風幻想曲 シューベルト/メルツ編: 涙の賛美 郵便馬車 セレナーデ 漁師の娘</p> <p><i>Part2</i> クラシックギターによる 武満徹: フォリオス バッハ: リュート組曲第3番BWV995 ほか</p> |
|----------------|--|

2023年7月22日(土) 19:00開演 18:30開場

会場: ながらの座・座 定員: 50名

参加費: 一般 5,000円/学生 3,000円(若干名/20歳以下)、1,000円(小・中・高)

※終了後交流会あります。参加費: 1ドリンク500円

申し込み: ホームページの申し込みフォーム (<https://nagara-zaza.net/contact/>) にてお申し込みください。※未就学のお子さまの参加はご遠慮ください

主催: 一般社団法人文化農場(ながらの座・座)

後援: 滋賀県・滋賀県教育委員会 大津市・大津市教育委員会 文化・経済フォーラム滋賀

特別協賛: 中山倉庫株式会社 滋賀石油株式会社



天台密教と神仙蓬莱の世界を現す、座・座の庭

座・座の庭は、登録有形文化財の住宅とほぼ同時期に整備されたと言われています。庭の中心には約100m²はあると思われる池が建物と接して横たわり、池の中央には「過去・現在・未来」を現す石の橋が架かっています。橋を境に東部分は滝不動尊を中心とした天台密教の世界を、西部分は池の浮島を中心とした神仙蓬莱の世界をあらわしています。決して大きくはない庭ですが、紅葉を中心とした樹木たちは新緑、紅葉と変化に富む風景をみせてくれます。また、さまざまな鳥たちも季節ごとに遊びにきてくれます。最近では鴨のカップルまでやってくるようになりました。

徳永真一郎

コンサートや様々なパフォーマンス、池に入ったり魚と遊んだりできるこの庭は、ホールでは実現しにくい実験的・先駆的な活動を受け入れてくれる未来の想像力を育む場でもあります。

登録有形文化財「橋本家住宅」・滋賀県指定名勝

ながらの座・座

〒520-0035 大津市小関町3-10

TEL&FAX 077-522-2926 MOBILE 090-8576-7999(橋本)

<https://nagara-zaza.net/>



- JR大津より徒歩15分
- 京阪電鉄京津線「上栄町」より徒歩7分
- 名神高速「大津」または「京都東」より車で5分、またはR1号線→R161号線で。
- コインパーキング「Times 大津日赤前」が座・座から徒歩3分程度のところにあります。21台駐車可です。

